

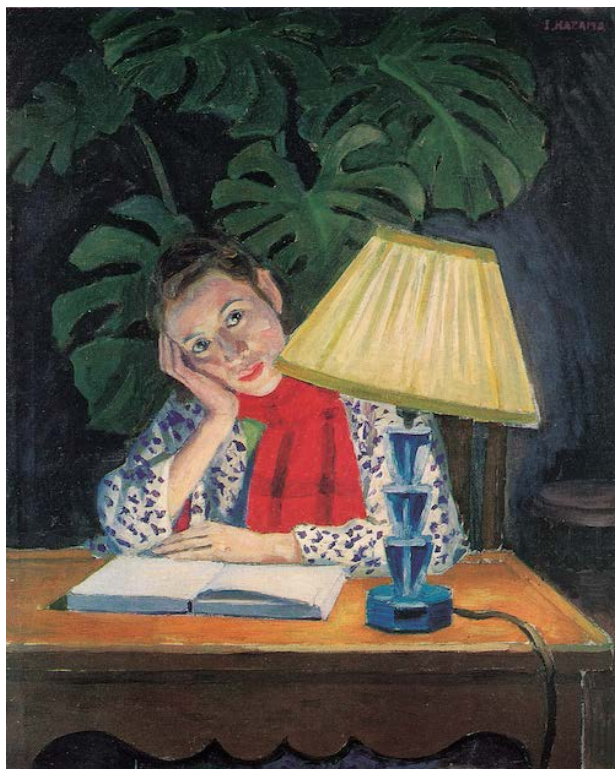
報道各位

2025年2月12日
公益財団法人石橋財団 アーティゾン美術館

碓伊之助展

2025年3月1日[土]–6月1日[日]

出品作品点数、見どころ等を更新しました。



碓伊之助《燈下》1941年、油彩・カンヴァス、碓伊之助美術館
(加賀市美術館寄託)

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館（館長 石橋 寛）は、「碓伊之助展」を開催します。

碓伊之助（1895–1977）は、フェウザン会や二科会で若い頃より注目された画家でした。一時は文化学院や東京藝術大学で後進の絵画指導にあたり、晩年は色絵磁器の創作に熱意をもって取り組みます。制作活動のかたわら、クールベやゴッホなどの画集の編集や、『ゴッホの手紙』（岩波書店）の翻訳に携わるなど西洋美術の紹介にも尽力した他、師マティスの日本ではじめての展覧会（1951年）実現にむけて作家との交渉に携わる実務家としての一面もあわせもっていました。さらに、裕福な出自をもつ碓が自身の研究のために収集した作品の一部、マティス《コリウール》（1905年）やルソー《イヴリー河岸》（1907年頃）は、現在石橋財団に収蔵されており、当館にとってゆかりの深い作家の一人でもあります。本展は、油彩画、版画、磁器などの作品と資料83点、碓と関わりのある当館の西洋絵画コレクション17点、あわせて100点を展示し、碓の多様な側面を紹介する東京で初めての回顧展です。

碓伊之助 HAZAMA Inosuke

1895年、東京市本所区向島に生まれる。1912年、16歳のときに太平洋画会展やヒュウザン会展で画壇にデビューし、二科賞を二度受賞するなど活躍。1921年に渡欧、マティスと出会い、教えを乞う。滞欧中も春陽会展へ滞欧作を出品。1929年に帰国、春陽会や二科会での活動の他、井伏鱒二『仕事部屋』（春陽堂）など書籍の装丁や新聞連載小説の挿絵を担当。1933年、「日本現代版画とその源流展」開催のために再渡仏。1936年、一水会を創立。1938年と1940年、従軍画家として中国へ渡る。1941年、文化学院美術部長となる。1945年、東京大空襲により、本郷のアトリエを焼失。1950年、東京藝術大学助教授となる。同年、マティスに招請され渡欧し、マティス展、ピカソ展、ブラック展、ゴッホ展にむけた折衝を行う。帰国後、作陶を学ぶため、1951年頃よりたびたび小松に滞在。1955年、訳書『ゴッホの手紙・上』（岩波書店）刊行。1958年、一水会陶芸部を創立。1961年、加賀市吸坂で窯の建設に着手。1964年、渡欧。翌年、アルバニアを訪問。1977年81歳にて死去。

【見どころ】

1) 碓伊之助の回顧展を東京で初開催

1912（明治45）年、第1回ヒュウザン会展に初出品した碓は、当時、弱冠16歳。1914（大正3）年の二科展では第1回二科賞を受賞し、若くして画壇にデビューしました。1944（昭和19）年、安井曾太郎から東京美術学校の講師へ誘われるなど、大正、昭和の洋画成熟期に画壇で一目置かれていましたが、これまでその画業が広く紹介された機会は限られ、両親の郷里である和歌山と、晩年を過ごした加賀での展覧会のみがあげられます。本展は、碓の出身地でもある東京で開催される初めての回顧展であり、初期から晩年までの絵画を一望いただけます。

碓は、フランスで摺師^{うるしぼらもくちゅう}漆原木虫に教わった経験もある木版の名手でもありました。小説家井伏鱒二との交流も深く、書籍の装丁や新聞連載小説の挿絵なども手がけています。本展では、油彩画のほか、木版画と石版画、新聞掲載の挿絵や雑誌のカット原画もご紹介します。



左：碓伊之助《女の背》1917年、油彩・カンヴァス、個人蔵（加賀市美術館寄託）

中央：碓伊之助《南仏田舎娘（『滞欧版画集』より）》1931年頃、木版、東京都現代美術館

右：碓伊之助《『新聞連載小説 丹羽文雄『恋文』(1)山の湯一』挿画》、1953年、インク、墨・紙、碓伊之助美術館

2) コレクター、そして展覧会の立役者

砵の《室内》（1928年）には、自身の作品に加え、収集したコロエの作品が描かれています。現在、当館に収蔵されるマティス《コリウール》（1905年）とルソー《イヴリー河岸》（1907年頃）は、砵が絵の研究のために滞欧中に購入した作品です。また、当館の創設者である石橋正二郎がセザンヌ《サント=ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》（1904-06年頃）とマティス《縞ジャケット》（1914年）を入手する際にも関わったと伝えられています。

1951年にマティス展とピカソ展、1952年にブラック展、そして、1958年にゴッホ展がそれぞれ国内で初めての展覧会として開催されました。戦後すぐ、海外渡航が難しい時代に、砵はマティスからの手紙により招請されるかたちで1950年に渡仏します。砵が画家や画商たちと交渉したことがきっかけとなり、それらの展覧会は実現に至りました。

さらに、砵は1932年に『西洋名画家選集 1 コロ画集』（アトリエ社）を編集して以来、クールベ、セザンヌ、ヴァン・ゴッホ、マティスなどの画集や書籍にも携わります。1955年から20年を要して『ゴッホの手紙』（岩波書店）の翻訳を行うなど西洋美術の紹介にも尽力しました。

このように、これまでの回顧展では紹介されていない、制作者とは異なる一面もご紹介します。



左：砵伊之助《室内》1928年、油彩・カンヴァス、砵伊之助美術館

中央：アンリ・ルソー《イヴリー河岸》1907年頃、油彩・カンヴァス、石橋財団アーティゾン美術館

右：「アンリ・マチス展」ポスター、1951年、砵伊之助美術館

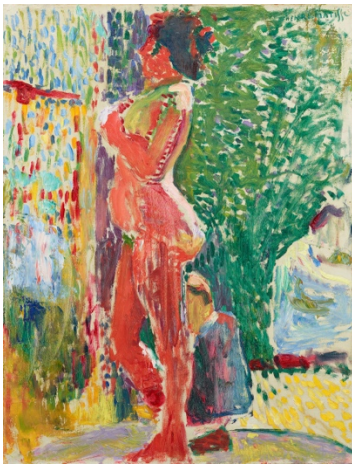
3) 九谷^{すいさか}吸坂窯での陶芸作品を紹介

砵は、画家木下^{よしのり}義謙と作陶を始めようと1951年頃よりたびたび石川県小松市に滞在し、初代徳田八十吉や他の職人たちに九谷焼の制作方法について教わりました。翌1952年に日本アンデパンダン展へ磁器作品を出品し、1958年には木下と荒川豊蔵、12代今泉今右衛門、12代酒井田柿右衛門、藤原啓らと一水会に陶芸部を創立します。1961年には、加賀市吸坂で窯の建設を始め、300年以上の歳月を経た藁葺き屋根の古民家を工房兼住居としました。そこで弟子たちと共同生活を送りながら徐々に窯を完成させ、吸坂釉の復興などにも取り組みました。加賀へ移って以降の陶芸作品をご覧ください。



左：碓伊之助《吸坂窯 象嵌あやめ大鉢》1971年、磁器、碓伊之助美術館（石川県九谷焼美術館寄託）
 中央：碓伊之助《九谷呉須上絵 夏樹立大皿》1973年、磁器、碓伊之助美術館
 右：碓伊之助《九谷上絵 鳥越村採石場大皿》、1975年、磁器、碓伊之助美術館（石川県九谷焼美術館寄託）

【その他の主な出品作品】



アンリ・マティス《画室の裸婦》1899年、油彩・紙、石橋財団法人ティゾン美術館



碓伊之助《南仏風景（シミエの眺望）》1928年、油彩・カンヴァス、碓伊之助美術館（加賀市美術館寄託）



碓伊之助《尼寺》1935年、石版、碓伊之助美術館



碓伊之助《鵲沼の思い出》1937年、油彩・カンヴァス、碓伊之助美術館（加賀市美術館寄託）



碓伊之助《栗》1940年、油彩・カンヴァス、碓伊之助美術館（加賀市美術館寄託）



碓伊之助《溪流》1961年、油彩・カンヴァス、加賀市美術館

【関連プログラム】

土曜講座

第一回「碓伊之助と版画—ある〈生〉の表現としての—」

2025年3月8日(土)

講師=植野比佐見(和歌山県立近代美術館学芸員)

第二回「多才な美術家、碓伊之助—画家で陶芸家、かつコレクター—」

2025年3月22日(土)

講師=伊藤絵里子(アーティゾン美術館学芸員)

第三回 対談「碓伊之助、吸坂窯での作陶について」

2025年4月12日(土)

講師=碓紘一(碓伊之助美術館館長)、中越康介(石川県九谷焼美術館副館長)

会場：アーティゾン美術館 3階 レクチャールーム

時間：14:00-15:30(13:30開場)

*事前申込制

*詳細は当館ウェブサイトにてお知らせします。<https://www.artizon.museum/program>

【開催概要】

展覧会名： 碓伊之助展

主催： 公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館

特別協力： 碓伊之助美術館

会場： アーティゾン美術館 5階展示室

会期： 2025年3月1日[土]-6月1日[日]

開館時間： 10:00-18:00(毎週金曜日は20:00まで) *入館は閉館の30分前まで

休館日： 月曜日(5月5日は開館)、5月7日

入館料(税込)： 日時指定予約制(2025年2月12日[水]よりウェブ予約開始)

ウェブ予約チケット1,800円、窓口販売チケット2,000円、学生無料(要ウェブ予約)

*予約枠に空きがあれば、美術館窓口でもチケットをご購入いただけます。

*中学生以下の方はウェブ予約不要です。

*この料金で同時開催の展覧会を全てご覧いただけます。

担当学芸員： 伊藤絵里子、原小百合

同時開催



《「ダダ・ヘッド」とゾフィー・トイバー》1920年、アルプ財団、ベルリン/ローラントシュヴェルト
撮影：ニック・アルフ



《「臍-単眼鏡」とジャン・アルプ》1926年頃、アルプ財団、ベルリン/ローラントシュヴェルト
© VG BILD-KUNST, Bonn & JASPAR, Tokyo, 2024 C4762

ゾフィー・トイバー=アルプとジャン・アルプ

20世紀前半を代表するこのアーティスト・カップルをめぐり、個々の創作活動を紹介するとともに、両者がそれぞれの制作に及ぼした影響やデュオでの協働制作の試みに目を向け、カップルというパートナーシップの上にはいかなる創作の可能性を見出せるか、再考します。

会場：アーティゾン美術館 6階展示室

会期：2025年3月1日[土]-6月1日[日]

開館時間：10:00-18:00（毎週金曜日は20:00まで）*入館は閉館の30分前まで

休館日：月曜日（5月5日は開館）、5月7日



アルフレッド・シスレー 《サン=メヌス六月の朝》1884年、石橋財団アーティゾン美術館

石橋財団コレクション選 コレクション・ハイライト

19世紀から20世紀にかけての西洋近代美術や、抽象表現を中心とする20世紀初頭から現代までの美術、そして日本の近現代美術など、石橋財団コレクションの代表作のなかから様々な魅力をご紹介します。

会場：アーティゾン美術館 4階展示室

会期：2025年3月1日[土]-6月1日[日]、6月10日[火]-9月21日[日]

開館時間：10:00-18:00（毎週金曜日は20:00まで）*入館は閉館の30分前まで

休館日：月曜日（5月5日、7月21日、8月11日、9月15日は開館）、5月7日、6月3-8日、7月22日、8月12日、9月16日

入館料（税込）：日時指定予約制

*予約枠に空きがあれば、美術館窓口でもチケットをご購入いただけます。

*中学生以下の方はウェブ予約不要です。

*会期により入館料が異なります。

◆ ウェブ予約チケット 1,800 円、窓口販売チケット 2,000 円、学生無料（要ウェブ予約）

*この料金で下記同時開催の展覧会をご覧頂けます。

3月1日[土]-6月1日[日]「ゾフィー・トイバー=アルプとジャン・アルプ」展、「碓伊之助展」

6月24日[火]-9月21日[日]「オーストラリア現代美術 彼女たちのアボリジナル・アート」展

◆ ウェブ予約チケット 500 円、窓口販売チケット 500 円、学生無料（要ウェブ予約）

*6月10日[火]-6月22日[日]は4階展示室のみ公開、6・5階展示室は休室します。この料金

で「石橋財団コレクション選 コレクション・ハイライト」のみご覧頂けます。

*6月2-9日の休館時に一部展示替えをいたします。

アーティゾン美術館 〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2

Tel: 国内 050-5541-8600 海外 047-316-2772 (ハローダイヤル) www.artizon.museum

アクセス：JR 東京駅（八重洲中央口）、東京メトロ銀座線・京橋駅（6番、7番出口）、東京メトロ・銀座線/東西線/都営浅草線・日本橋駅（B1出口）から徒歩5分

【広報用図版】

1点のみ掲載の場合は1ページに掲載の図版をお使いください。

掲載時には必ずクレジットをご記載ください。また、文字載せやトリミングはご遠慮ください。

■図版は、下記サイトからダウンロードしていただけます。

広報用画像データのダウンロードはこちら

<https://www.artpr.jp/artizon/hazamainosuke>



本プレスリリースについてのお問合せ先

アーティゾン美術館 広報課 松浦・小川・宮武

*一般の方のお問合せ先は 050-5541-8600 (ハローダイヤル) です。

E-mail: publicity@artizon.jp

TEL: 03-6263-0132 (広報課直通・誌面への掲載はご遠慮ください。)

〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2